

生活リハビリ(四肢マッサージ)の3年間の振り返り

～ケアに対する意識が変わったか～

医療法人寿栄会 本間病院

共同研究者・発表者：佐藤美智代

【はじめに】

3年前より病棟で、生活リハビリ係を立ち上げ、四肢マッサージ・軟膏塗布を行ってきた。今回、介護職員が、生活リハビリに対しての患者の変化や認識、確実にできているか、アンケート調査を行った。結果、四肢拘縮の拡大、皮膚剥離の減少に繋がり、職員も業務としてのケアから患者が必要としているケアへと認識の変化もみられたため、ここに報告する。

【研究目的】

生活リハビリに対する認識と実施についての意識調査、現状把握を行う。

【研究方法】

- ・期間：平成22年8月～平成25年8月
- ・対象者：病棟職員24名
- ・方法：質問紙調査法

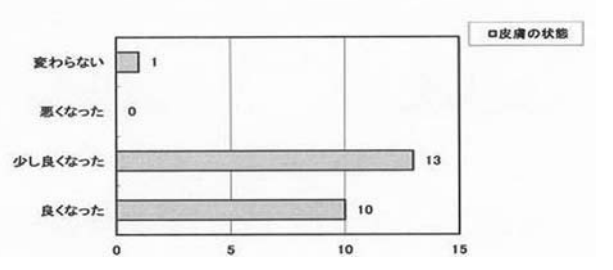
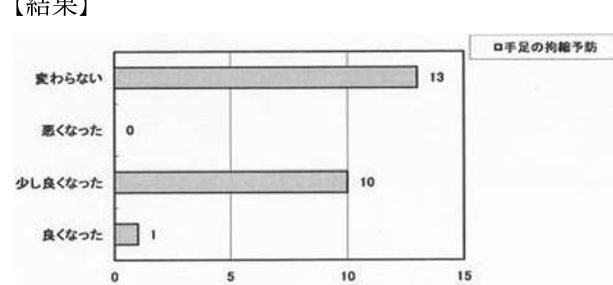
☆四肢マッサージについてのアンケート

- 1.今までマッサージを行ってきた、あなたはどう思いますか。
- 2.あなたがこの四肢マッサージを行うにあたり、どんな意識をもって、患者さまにマッサージをしていますか？

【倫理的配慮】

今回のアンケートは、研究以外に使用しないことを説明し、了承を得た。

【結果】



【考察】

今回のアンケート結果、意見より、四肢マッサージによる改善効果は少なかったが、以前より悪くなったと思うスタッフが、一人もいなかった事は、現状維持と進行を防いでいると考える。これは、四肢マッサージの一つの効果だと考える。同時に、軟膏を塗り、皮膚の保湿に努めたことが、皮膚の脆弱さを改善し表皮剥離の減少へと繋がった。これは、皮膚の老化対策でもある、軟膏塗布によって乾燥を防いだことが要因だと考える。このように、患者の状態が改善や現状維持している事より、職員は他の患者の皮膚の状態観察や、体位変換（ポジショニング）にも工夫するようになってきた。しかし、四肢マッサージを行う時間の問題や、やり方の問題などが意見にあがっているため、今後は、生活リハビリ係と内容について、検討を行う必要がある。

【おわりに】

四肢マッサージを3年間行ってきた、スタッフも最初は、業務として行っていた事が次第に一人一人の意識が変化し、ケアへの関わり方を自ら考え、実施できるようになり、四肢マッサージの効果へと繋がった。このように、業務の一貫として始めたケアが、患者の状態が改善することで個人の認識へと繋がり、自ら率先しケアを行えるように、介護の質向上に努めていきたい。

【参考文献など】

- 1) 高齢者ケア (株)インターメディカ
2010年3月10日初版第一刷発行号数
- 2) 基礎看護技術マニュアル
学習研究社1990年1月30日第5刷発行
- 3) 安心安全ケア実践と記録
日総研出版平成25年3月20日(3,4月号)

